

健康

**質問** スキルス胃がんは、進行が早く怖いがんと聞きました。普通の胃がんとの違いはありますか。また、遺伝するものなのでしょうか。

スキルス胃がんの特徴は

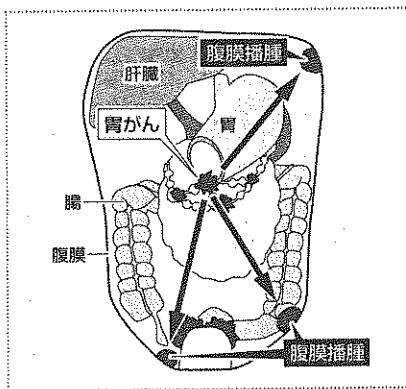


吉川 幸造  
徳島大学病院  
消化器外科病棟棟長

**回答** 胃がんは日本のがん死原因の第2位で、そのうち10%がスキルス胃がんです。スキルス胃がんは50歳以下の若い女性に多い傾向があり、胃がんの中で最も悪性度が高いものです。

理由としては①発見されにくい②転移しやすい③リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい④胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑤胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑥胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑦胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑧胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑨胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい⑩胃の壁が薄く、リンパ管が豊富にあり、リンパ管を介して転移しやすい

発見は困難 転移も早く



胃潰瘍のような症状が出にくいのです。そのため、相当進行してから発見されることが多いですが、腹膜播種がない

れま。次に転移しやすい原因ですが、早期に腹膜播種を起すことです。腹膜播種とは、がんが進行して胃の壁を突き破り、がん細胞が散らばった状態のことです。おなか全体にがん細胞が散らばってしまうので、治療が困難になります。

場合によっては胃を切除しますが、がんの広がりが分かりにくいので、胃を全部摘出する必要があります。また再発の危険性が高いことから術後に抗がん剤治療が必要になることが多いです。

播種が認められた場合には、おなかに広がったがんをすべて摘出することは不可能であるため、抗がん剤治療となります。徳島大学病院消化器外科ではこの腹膜播種に対して、おなかに直接抗がん剤を投与する先進医療を行っています。

遺伝に関してはさまざまな報告がありますが、現在のところはまだ確立していません。何よりも早期発見が重要ですので、症状がなくても胃カメラや透視検査を受けることが重要です。(第4土曜掲載)

全摘か抗がん剤治療

がんに関する質問は徳島がん対策センター(電話089(0)9438)平日午前8時半から午後5時までにお寄せください。http://www.toku-ganaisa.ku.jp/でも受け付けます。